

◊◊◊◊◊
随想
◊◊◊◊◊

懐かしい遊びとその道具(三)

男子の外遊びと女子の屋内遊び

古橋昭子

(青山学院大学名誉教授・
理学博士・湘南日独協会会員)



男の子たちは「ビー玉」や「けん玉」「メソコ」で取ったり取られたり。また馬とびなどをしていた。メソコにはその時々の人気が描かれて居り、相撲の札を取ることができ

あや取りお手玉も、まあ大人しい遊びだったが、お手玉も大勢集まって、休み時間の教壇の周りで「おさらい」をする時は賑やかだった。お手玉の中身は小豆、音も使い心地も大変良く、形は俵型より市松型が優れていて人気があった。たくさんのお手玉を使うときは「おさらい」の時は一乗せ一乗せと手の甲に全部乗せたら次は2つずつに乗せ乗せと段々むずかしくなる。これもなせか上手、下手がずいぶんあったものだ。四年生ぐらいになる頃毬つきがはやった。白い毬が一番つき良くて、持ち主は大いにもてた。一もんめ、二丁二もんめ、三もんめク製品になった。めとだんだんむずかしくなる。私は才能がなかったよ。ネックレスや腕輪、指輪など十の段までなかなか行ど作った。材質がガラスときつげなかったものだ。女なるとビースでも高価での子のゲームには、一般に唱供の小遣いで買えるものがつく。唄われたのは軍歌が多かった。家の中にはもつと遊び道具がある。生れてすぐのセイルロイドのガラガラや、オてのお人形さんごっこや着せ替え人形、お正月の福笑い製品が多かったが、引火しぐらいだから消滅しないだやすく、180℃となればろう。花札もマーシャンも自然発火するので近年セルロイド製品は殆んど見なくでかなり下火なようだ。(エフスト・金子繁治)